



(題字 小黒千足 学長)

第328号

(平成 3 年12月号)



名鉄トヤマホテルで開催された「平成 3 年度富山県留学生等交流推進会議」

(平成 3 年11月29日)

## 目 次

## 学 内 諸 報

- ◆ 平成3年度富山県留学生等交流推進  
会議の開催 ..... 3
- ◆ 第3回（平成3年度）富山県内国立  
学校等中堅職員研修の実施 ..... 4
- ◆ 五福地区構内一斉清掃の実施 ..... 6
- ◆ 文部省永年勤続者の表彰 ..... 6
- ◆ 富山大学国際交流事業基金による招へい  
外国人研究者の学術講演会を開催 ..... 7
- ◆ 理学部で学術講演会を開催 ..... 8

人 事 異 動 ..... 8

## 学 事

- ◆ 平成3年度文部省在外研究員派遣者  
の決定 ..... 9

寄 稿 海外レポート

- ◆ 「海外教育事情視察を終えて」 ..... 9  
—— 附属養護学校 教諭 酒井義久 ——

関 係 法 令 ..... 12

諸 会 議 ..... 12

## 学 内 規 則

- ◆ 富山大学自己点検・評価に関する  
検討委員会規則の制定 ..... 13
- ◆ 富山大学入学試験委員会規則の制定 ..... 14
- ◆ 富山大学入学試験実施委員会規則の  
制定 ..... 15
- ◆ 富山大学入学者選抜方法研究委員会  
規則の全部改正 ..... 17
- ◆ 富山大学事務分掌内規の一部改正 ..... 18
- ◆ 富山大学事務組織等検討委員会要項  
の制定 ..... 18

叙 勲 ..... 19

レクリエーション ..... 19

海 外 渡 航 者 ..... 20

職 員 消 息 ..... 21

主 要 行 事 ..... 22

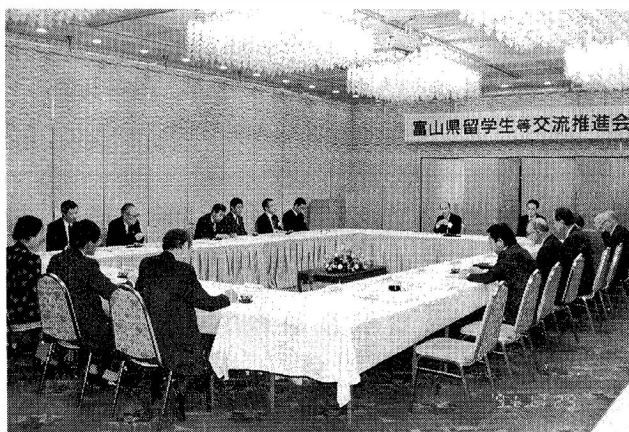




## 県内留学生に関する諸問題を協議

### 平成3年度富山県留学生等交流推進会議の開催

富山県における留学生等の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与することを目的として、県内の大学、国の機関、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体及び学識経験者等の協力により、平成元年11月に設置された富山県留学生等交流推進会議の平成3年度会議（議長：小黒千足 富山大学長）が、去る11月29日（金）名鉄トヤマホテルにおいて開催されました。



▲ 小黒学長を議長に、留学生の受入れ体制の整備・充実について協議された

会議では、初めに、同推進会議事務局（本学学生部学生課）から、富山県内における外国人留学生の受入れ状況について報告がなされ、県内の高等教育機関に在籍している外国人留学生数が、平成3年12月12日現在で140名となり、その大多数を占めるアジア諸国出身者の比率は91.4%で全国平均と同程度であり、これは全国的にも年々増加傾向にあることから、本県でも今後その比率が高くなると予想される等説明がありました。

その後、同推進会議運営委員会委員長（本学 増田信彦 学生部長）から、平成3年度運営委員会報告と

して、富山県内の企業に対し実施した「社員寮への外国人留学生受入れについて」のアンケート調査結果及び留学生の奨学金受給状況等について報告があり、引き続きこの報告に基づいて、大学のみならず地方自治体における留学生会館の設置や、企業の社員寮の開放、県民に対するホームステイの啓発・普及、民間宿舎の確保及び入居助成等の外国人留学生に対する宿舎の確保、教育指導、企業等における奨学金制度の充実等経済的な支援及び地域住民との交流について協議が行われました。種々意見交換の結果、今後ますます増加する留学生に対する受入れ体制の整備・充実にかかわるこれらの問題について、更に積極的に取り組んで行くことになり、議長から、各機関団体に対し、一層の協力と支援の要請がありました。

また、今年度は特に、本学大学院及び富山医科薬科大学大学院に在籍している留学生各1名を招き、それぞれの「留学生活」についての実情を聞いて今後の事業活動の参考としました。

なお、会議終了後、同ホテル「朝霧の間」において会議に出席した委員、留学生及び富山県費留学生2名の参加による懇談会が行われ、和やかな雰囲気のうちにお互いの交流、理解を深めました。



▲ 留学生も交えて懇談する推進会議委員

## 第3回（平成3年度）

## 富山県地区国立学校等中堅職員研修の実施

第3回（平成3年度）富山県地区国立学校等中堅職員研修が、去る11月12日（火）から11月14日（木）までの3日間、本学が世話機関となり、本学事務局大会議室及び国立立山少年自然の家において実施されました。

本研修は、富山県内に所在する6機関（富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学、富山工業高等専門学校、富山商船高等専門学校、国立立山少年自然の家）

合同の研修で、当該機関の職員のうち、中堅職員に対し、その職務の遂行に必要な基礎的知識、技術、態度及び広範な行政的視野並びに社会的見識を付与することにより、各機関の中核となるべき職員の養成を図ることを目的としたものです。

本年度は、5機関から22名が受講し、本学の受講者は、10名でした。

なお、受講者及び研修日程は次のとおりです。



▲ 大学教育改善の必要さを  
講義する勝山事務局長



## 〔研修日程〕

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
11月12日(火)	開講式 オリエンテーション 自己紹介	「講義」 富山大学事務局長 勝山 進	「講義」 富山大学教育学部教授 長井 真隆	休憩	「講義」 富山大学教養部助教授 布村 忠弘	(班別討議) フリートーキング	(全体討議) (各班発表)		
11月13日(水)	(班別討議) 事例研究 I	(移動) 国立立山少年 自然の家へ	休憩	見学	(晴) 軽登山 (雨) ビーチボール	入浴	懇親会	宿泊	
11月14日(木)	「講義」 富山大学人事課長 村山 年男	(班別討議) 事例研究 II	休憩	(班別討議) 事例研究 I 事例研究 II まとめ	(全体討議) (各班発表)	(移動) 富山大学へ	アンケート	閉講式	

## 〔受講者〕

富山大学	庶務部人事課	石坂 淳子	富山医科薬科大学	医事課	奥田 豊子
"	経理部経理課	太田 則春	"	"	平野 妙子
"	施設課	石田 精一	"	学生課	西田 等
"	人文学部・理学部	清水 麗子	高岡短期大学	庶務課	小路 隆
"	"	奥野 芳明	富山工業高等専門学校	庶務課	酒井 勲
"	教育学部	武本 光雄	富山商船高等専門学校	会計課	藤井 栄吉
"	経済学部	佐藤 淳	"	学生課	長崎 悟
"	"	相澤 伸彰			(以上 22名)
"	工学部	高尾 邦彦			
"	"	岩 永晴雄			
富山医科薬科大学	庶務課	道林 一郎			
"	"	竹林 智恵子			
"	主計課	牧石 信康			
"	経理課	中塩 紀美			
"	施設課	岡本 邦広			



## 全学一斉に構内美化

### 五福地区構内清掃

今年3度目の五福地区構内清掃が、去る11月25日（月）の午前中に実施されました。4月・7月に引き続き今回も、各部局から大勢の事務職員の協力を得て、構内建物の外回りの清掃が行われ、同時に職員等の環境美化意識の高揚が図られました。

この日は、前夜の強い風雨で散った枯葉が濡れた歩道にこびりついて、参加した職員を悩ませていましたが、熱心な職員の働きに加え、購入間もない真空掃除機の活躍もあり、事務局だけでも約700キログラムのごみが集められました。

昨年12月から始められたこの構内清掃も、学内行事の一つとして定着しつつあるようです。願わくば、回を重ねるたびに集積されるごみの量が減ることを。



▲ 濡れた落ち葉を掃き寄せる事務職員

### 文部省永年勤続者の表彰

文部省永年勤続者として、次の方が表彰され、平成3年11月27日（水）午前11時55分から学長室において、小黒千足学長から表彰状が伝達されました。

20年勤続表彰 庶務部庶務課長 湯澤芳雄



▲ 小黒学長から表彰状の伝達を受ける湯澤庶務課長

## 平成 3 年度富山大学国際交流事業基金による

## 招へい外国人研究者の学術講演会

このたび、人文学部では、富山大学国際交流事業基金第2種外国人招へい事業により中国、新疆師範大学の侯燦教授を去る11月11日から13日までの3日間招へいし、本学教官との研究交流並びに講演会、座談会が開催されました。

講演会は、11月11日（月）、教養部2番教室において「砂に埋もれたシルクロード王国—楼蘭（ロウラン）の発掘—」と題して行われました。

講演は、さまよえる湖ロプノールの位置を求めて探検していたヘディングが偶然に発見した幻の王国「楼蘭」の、スタイン、日本の大谷探検隊に次ぐ世界で第4番目の遺跡発掘調査者として、水もなく、生息するものもない砂漠の真中の調査環境としては最も厳しい同遺跡における22日間にわたる発掘調査の苦労や成果について、体験を通して熱心に語られ、約130名の聴衆に深い感銘を与えました。

また、座談会は、翌12日（火）人文学部東洋史学演習室において「侯燦教授を囲んで—トルファン学、その他—」と題して行われ、侯燦教授のもう一つの研究分野である西域トルファン出土の漢文文書の整理研究について、新出土の史料を直接手にして、史料価値を解明する苦労と魅力について、参加した教官、学生約35人を前に詳しく話されました。



▲ 砂に埋もれたシルクロード王国—楼蘭（ロウラン）の発掘について講演する新疆師範大学侯燦教授

また、同事業により、成城大学へ交換教授として来日中の、本学外国人教師エリザベス・バレストリエリ氏の恩師であるウィスコンシン・ミルウォーキー大学のイーハブ・ハッサン教授を去る11月14日から18日までの5日間招へいし、本学教官との懇談等研究交流並びに講演会が開催されました。

講演会は、11月15日（金）人文学部語学文学教科棟104番教室において、「戦後アメリカ小説（序論）」“Post-War American Novels—An Introduction”と題して行われました。

教授は、戦後の文学的・思想的潮流を理解するに当たって、時代を南部、ユダヤ人、黒人の問題が主流でアイデンティティが追求された1945年から1963年、ノンフィクション、ポスト・モダン、S. F.（空想科学小説と同時に思弁的風刺である。）が中心となり、現実社会のパロディが行われた1963年から1980年、ミニマリズム、ネオ・ヒストリカル（新歴史小説）、旅行記・探訪記の時代、すなわち人間の存在状況とそこから脱出手段を探して、些末なものへの関心とそれに全く反する未知の世界への興味を同時に示している点が顕著な1980年から現在までの三つに区分する仮説を立てられました。教授は該博な知識を援用し、具体的に作品と作家を挙げてこの仮説を解説し、聴衆の理解を深めてくれただけでなく、個別的な挿話をはさんで説得力ある論証を展開されました。

また、最後の時代の特色が、アメリカだけのものではないことを論じた際には、優れた比較文学者としての片鱗を示して、大江健三郎、安部公房、村上等の現代日本の作家の作品を対比的に引き出し、現代世界での状況が日本やその他の国々でも変わらないことの証とされました。

こういった知的興奮を刺激する講義が、全くクリアで聞き易い、なまりの無い英語で語られたので、教官、学生、大学院生、その他約170名の聴衆は十分な理解をもって、一時間半の時間の経つのを意識することなく聴き入っていました。

ハッサン教授が残してくれたものは有形・無形いろいろあったと思われるが、最も大きかったのは、教授の持つ「知的雰囲気」と「知的好奇心」の重要性であり、特に、学生諸君にとっては、碩学の講筵に列して

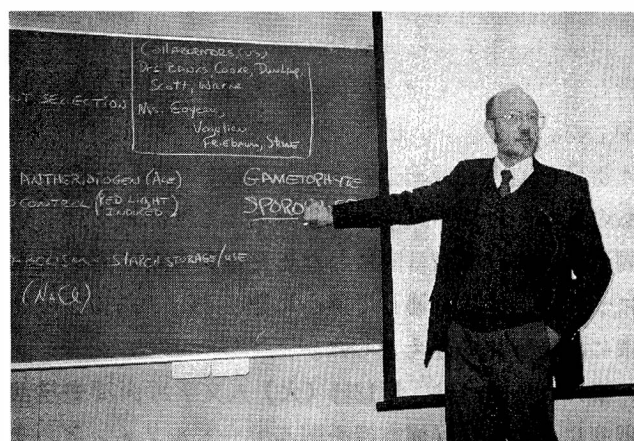
教えるところの大きな講義を直接に聞いて理解した経験が、勉学を勧める上での励ましとなり、自信となったものと思われます。

## 理 学 部 で も 学 術 講 演 会

米国、テネシー大学植物学教室のL. G. ヒコック教授が、本年10月から外国人研究者として本学理学部生物学講座を訪問され、約2ヶ月にわたって共同研究に従事されました。

これを機会に、去る11月6日（水）、同教授による「ミズワラビ突然変異体を用いた実験生物学」と題する講演会が、理学部2号館10番教室において開催されました。

講演は、シダ植物であるミズワラビの胞子を放射線、突然変異誘発剤で処理し、得られた突然変異体を用いて、生殖器官の分化、胞子の発芽等の機構を明らかにするという、極めて先端的かつユニークな基礎的研究に関するものであった。100人を超える教官・学生が出席し、大変明快な英語での講演を伺うことができ、また、その後は活発な質疑応答があり、大変有意義な講演会となりました。



▲ ミズワラビの生殖器官の分化、胞子の発芽機構について講演するテネシー大学ヒコック教授

## 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	3. 11. 18	山中 順子		事務補佐員（教育学部）
	3. 12. 1	岩渕 牧男		教 授（工学部）
昇 任	3. 12. 1	吉田 雅巳	講 師（教育学部附属教育実践研究指導センター）	助教授（教育学部附属教育実践研究指導センター）
辞 職	3. 11. 16	村田 宣子	事務補佐員（教育学部）	辞職を承認する
退 職	3. 12. 1	竹井 公子	臨時用務員（教育学部作業員）	平成3年11月30日限り退職した



## 学 事

## 平成 3 年度文部省在外研究員派遣者の決定

種 類	部局名	職名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
若手教官	経済学部	助教授	柳川 洋一	プロビデンス (アメリカ合衆国) ブラウン大学	人口高齢化に対する病院及び コ・メディカル政策の日米比較	平成 3 年12月24日 ） 平成 4 年10月23日

## 寄 稿 海外レポート

## 海外教育事情視察を終えて

教育学部附属養護学校教諭 酒井義久

クルクル回る回転ドアの真鍮の持ち手。次々という  
色々な色の手が握りしめる。航空会社のテレビのCM  
のような、世界の国々の人達が行き来する場面に、私  
は幸運にも文部省の海外教育事情視察団の一員として  
参加することができました。感謝の気持ちでいっぱい  
です。

通過国をも含めるとアメリカ、メキシコ、ドイツ、  
スイス、イタリア、モナコ、フランスそしてソビエト  
の上空を通過、文字どおり北半球一周、25日間の海外  
視察でした。特にアメリカ、ドイツ、フランスでは、  
教育委員会や学校を訪問し、その国の教育制度や子供  
たちの授業に直接触れることができ、貴重な体験がで  
きました。各国都市には2～4泊と滞在期間は短かく、  
全てを見たわけではありませんが、逆に短期間に多く  
の国を訪問することで、一つの見方でなく、様々な視  
点からものを見ることができました。

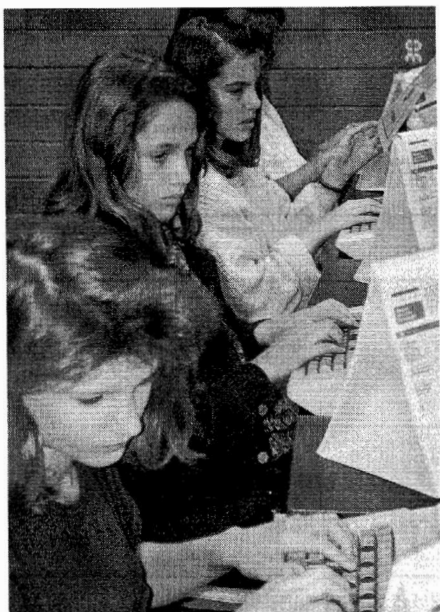
初めての海外旅行、異文化に接し、最初は見るとの  
全てが珍しく感心するものばかりでした。アメリカ西  
海岸の広大さ、ニューヨークの人種の複雑さ、ドイツ  
の落ち着いた街並み、ミラノのゴシック建築、マルセー  
ユの地中海の青い海と空……。どれもが、今までの

マスメディアを通して感じていたものとは異なり、新  
たな感動を持って迫ってくるものばかりです。帰った  
らあれも話したい、これも話したいと言うものがどん  
どんたまる一方でした。しかし、訪問する国が増える  
につれ、単にもの珍しさから感心するのではなく、少  
しずつ客観的に物事を見るようになってきている自分  
に気が付きました。

アメリカの学校訪問時に、「教育水準の高い日本へ、  
アメリカから視察に行くのに、逆に訪問を受けるのは、  
大変興味深い。」とアメリカ側の挨拶の中で述べられ  
ました。また、日本の学校5日制への動きを説明する  
と、「私達は、もっと授業日数を増やそうと思っている  
のに、なぜ減らそうとするのですか？その理由を聞  
かせてください。」と逆に質問されました。アメ  
リカでは、土曜日の活用（現在でも一部、学習の遅れ  
た児童を対象に授業をしている。）をどうすべきか検  
討中で、日本の教育に学ぼうとしているとの説明があ  
り、意外にも感じました。

アメリカ製のコンピュータを使った本校の授業風景  
の写真を見せると、不思議がられ、日本は何でもアメ  
リカの真似をしたがると首をひねられ、アメリカが日

本の真似をする順番と感じているようでした。



▲ コンピュータのタイピングをする中学生  
(アメリカ合衆国)

ドイツでは、少し早目に学校に着いても、予定の訪問時刻が来るまで、校舎内には入れず、バス内で待機させられました。授業参観では、一つのクラスの1時間の授業をじっくり参観しました。もの珍しい訪問者を迎えて興奮する子供たちを、適切な指導助言で普段の落ち着いた授業風景に戻す先生。子供たちのノートは、きれいな文字できちんと整理されて書いてある等、学習訓練がいきとどいている印象を受けました。また、障害児と健常児が半々の人数で学ぶ統合学校があり、新しい試み、充実した施設・設備を見ることができ、とても参考になりました。



▲ 絵のマッチングの学習をする小学生(ドイツ)

フランスでは、校門の持つ意味は大きいということを知られました。学校の授業が始まるまで、校門は

開かないし、時間が来たら校門は閉められるということ。決められた時間が来ると、校庭で教師の前にきちんと整列してから教室に誘導されるとのこと。昼食に家に帰っていた生徒が、午後からの授業開始の時間が来るまで、閉められた門扉に凭れて座り込んで待っているという光景は、日本流に感じると不自然にも感じるが、これも一つの割り切り方なのではないでしょうか。

学校の敷地内に官舎があり、必ず校長か教頭が住まなければならないという決まりがあるとのこと。そういえば、学校内の施設見学でも、あらゆる場所にカギが掛けてあり、いつまでも生徒が学校に残って活動できる日本とは、まったく逆に見え、管理的色彩を強く感じました。

どの国でも、先生方との話し合いでは、日本の学校制度や受験体制のこと等について、逆に質問を受けることが多くありました。うっかりしていると、どちらが訪問者かわからなくなるくらいでした。

どこに行っても見られる日本車や日本企業の看板。小さな島国日本が、世界的に現在の立場にあるには、日本なりの努力があったからなのでしょう。このために果たした教育の役割も大きく、今や世界が日本の教育に注目しているのではないのでしょうか。

全ての学校訪問を終えての私達の意見交換会で、「日本の教育は、大筋において間違っていなかったと確信を持った。」と話される退職間際の先生。「日本が、外国から学ぶべきものは、もうあまりないのではないか。」と感想を述べられる中堅の先生。確かに、施設・設備や授業参観での学習内容を見ると、そう感じられることもありました。

しかし、私には、日本では学校教育にあらゆることを期待し、教師の献身的な努力によって支えられていることが、随分多いと感じられました。学校運営の面では、多くのことを諸外国に、まだまだ学ばねばならないと思うようになりました。

10才まで、一人での外出禁止のフランスでは、保護者が、校門までの送り迎えをする。身体検査や予防接種は保護者が病院に子供を連れて行き、証明書を学校へ提出する。昼食は、家庭に帰ったり、弁当持参、または学校の食堂で、専門の指導員により食事をし、教師が関わることはないという。

「校門を一步出れば、本人又は親の責任」というルールが徹底している欧米の考え方を、見直してみる必要はないのでしょうか。何でも学校が引き受ける日本では、

学校・家庭・社会の役割をもっと明確にすることが大切だと痛感しました。ドイツ、フランスでは、日本で考えられるような多くの学校行事はなく、社会教育に支えられる体制が確立していることにもよるのでしょうが。（フランスでは、日本のような大きな体育館も、音楽室も見られなかった。体育や音楽などは、学校で行うには限界がある。能力適正に応じて、専門の施設のある所で指導を受ければよいという。）

学校は学習の場、しつけは家庭、スポーツ、文化的な趣味は個人的に地域のクラブで学ぶという割り切り方と、街頭に出て交通指導もする日本の教師の姿の接点をどこに見いだすか。それぞれに、一長一短があるでしょうが、訪問した各学校でいただいた資料を基に、よく考えて見たいと思っています。

学校訪問の合間には、その国のいろいろな歴史や文化に触れる機会もありました。

「日本人は、何しに私達の学校に来たの？私達の学校を買いに来たの？」と言うアメリカの小学生の言葉。

自由の女神を見るための船に乗る待ち時間に、黒人が大道芸で盛んに体操の派手なパフォーマンス。終わってから「Chinese 1ドル、Japanese 2ドル」と叫ぶ。それを聞いて、複雑な思いがしました。

メキシコのティファナでは、「ミルダケ、タダヨ」「ハラキリプライス」「センセー、シャチョウサン」と妙な日本語で大男のメキシコ人が、銀製品を売りつけに来る。

ルーブルやメトロポリタン美術館、その他、名所・旧跡には日本語の解説書が必ずと言っていいほど販売されている。どこへ行っても見られる日本人の団体に、いささかうんざりだが、かくも強い経済大国日本を支えた技術力の確かさは、やはり日本の誇るべきものである。

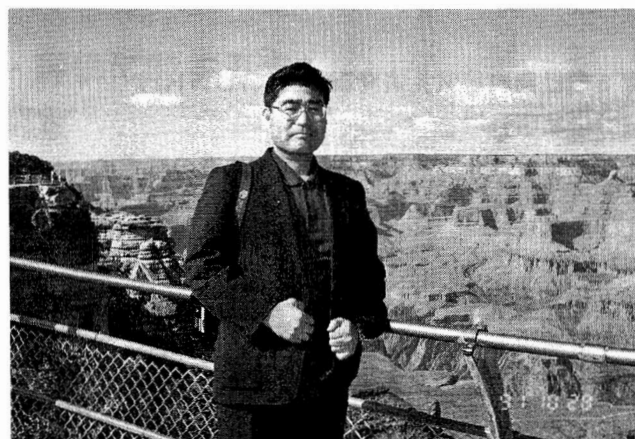
「日本のエアコンは、もっと音が静かでしたね。」と小さな声で、日本を訪問したことのあるドイツの先生。

パスポートの写真が少し変色していたため、ミュンヘンの検閲で足止め。その理由が、日本の写真は、もっとはっきり写るはずだからと、高く評価されている日本の技術水準がよくわかる。

日本製の車やビデオ、カメラが、世界中を堂々と動き回っています。国連ビルの各席に備え付けの通訳のヘッドホンも日本製。高い技術力を持ち、世界から信頼されている製品を作った日本人が、自分達が作った品物と同じほど世界から信頼されているだろうか

と思うと、少し不安になります。

ぞろぞろと連れだって歩く日本人団体を見ていると、日本の国際化に向けて、もっともっと身につけなければならない国際常識があるように感じました。食事のマナー、会話や服装等、もう少し洗練されていればいいのと思う場面が、多々ありました。そういう私も、イタリアのレストランでは、前菜だけを食べて、これで終わりと思い、店を出てきてしまったのですから大きなことは言えませんが、日本人の観光団は一人一人が、小さな外交官という意識をもっと持つべきだと感じました。



▲ グランドキャニオンにて（筆者）

「百聞は一見にしかず」今まで漠然と持っていた各国の印象が、深まったり、新しくなったりしました。しかし、これが全てではないでしょう。私は、ほんの一部に触れただけなのです。

視察前、机上の地球儀を何度も回して見ていました。視察を終えて再び地球儀をくるくる回してみます。様々な思い出とともに、今まで見えてこなかったものが見えてくるような気がします。訪問した国には、その国独自の歴史があり、文化がありました。しかし、言葉、髪や肌の色は異なっても、どの国にも美しく澄んだ子供たちの瞳と笑顔がありました。何よりも大切な財産だと感じました。そして、子供たちを語る教師の表情は、どの国の教師も同じでした。

一つしかない私達の宇宙船「地球号」を大切に、次代を担う子供たちの教育に、私は、今後、いかにこの視察で得たものを活かせるか、真剣に考えようと思っています。

〔筆者は、平成3年度国立大学・学部附属学校等教官海外教育事情視察派遣者として、去る10月25日から11月18日までの間、アメリカ合衆国、ドイツ、フランス等へ外国出張されました。〕

## 関係法令

## (省 令)

○学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（文部45）

11.14

## 諸 会 議

## 第 3 回授業料等減免選考委員会（11月11日）

## （協議事項）

- (1) 平成 3 年度後期分授業料免除者の選考について
- (2) その他

- (2) 平成 4 年度大学入試センター試験富山大学試験場の試験室、志願者及び監督者の部局別割り当てについて
- (3) 平成 4 年度大学入試センター試験富山大学試験場実施要項について

## 第 5 回補導協議会（11月11日）

## （審議事項）

- (1) 平成 3 年度在来生合宿研修について
- (2) その他

## 第 1 回レクリエーション委員会（11月21日）

## （課 題）

- (1) 平成 3 年度職員厚生経費の使用計画について
- (2) その他

## 第 6 回附属図書館商議会（11月14日）

## （審議事項）

- (1) 次期附属図書館長候補者の選定方法及び日程について
- (2) 外部データベースの接続について（JOIS等）

## 第 6 回大学院委員会（11月22日）

## （審議事項）

- (1) 平成 4 年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）第 2 次学生募集要項について
- (2) その他

## 第 6 回入学試験管理委員会（11月19日）

## （審議事項）

- (1) 平成 4 年度入学試験問題作成主任委員及び問題作成委員について
- (2) 平成 4 年度入学試験問題採点委員について
- (3) 平成 4 年度入学試験調査書審査委員について
- (4) 平成 4 年度入学試験判定資料の様式について
- (5) 平成 4 年度富山大学学生募集要項（募集人員）の変更について

## 第 9 回評議会（11月22日）

## （審議事項）

- (1) 平成 4 年度富山大学教育専攻科学生募集要項について
- (2) 平成 4 年度富山大学学生募集要項（募集人員）の変更について
- (3) 平成 4 年度大学入試センター試験富山大学試験場試験実施要項について
- (4) 富山大学入学試験委員会規則の制定について（継続）
- (5) 富山大学入学試験実施委員会規則の制定について（継続）

## 第 1 回大学入試センター試験実施委員会（11月19日）

## （審議事項）

- (1) 平成 4 年度大学入試センター試験富山大学試験場の基本方針（実施体制）について



- (6) 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の一部改正について（継続）
- (7) 富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則の制定について（継続）
- (8) その他

## 第4回部局長懇談会（11月22日）

（課 題）

- (1) 平成3年度教育研究特別経費（特別分）の配分について
- (2) 第8次定員削減について
- (3) その他

## 第5回事務協議会（11月29日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

## 学 内 規 則

富山大学自己点検・評価に関する  
検討委員会規則の制定

富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則を次のように定める。

平成3年11月22日

富山大学長 小黒千足

富山大学自己点検・評価に関する  
検討委員会規則

（設 置）

第1条 富山大学（以下「本学」という。）に、評議会の諮問に応じ、本学における教育研究活動等の自己点検及び評価の在り方について具体的検討を進めるため、富山大学自己点検・評価に関する検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（検討事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針
- (2) 自己点検・評価の実施方法
- (3) 自己点検・評価の実施体制
- (4) その他自己点検・評価に関して必要な事項

（組 織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 各学部及び教養部の教授 各2名
- (2) 学生部長
- (3) 附属図書館長
- (4) 事務局長

2 前項第1号に掲げる委員は、学長が委嘱する。

（任 期）

第4条 前条第1項第1号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

（議 事）

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

（意見の聴取）

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（部 会）

第8条 委員会は、必要であると認めたときは、部会を置くことができる。

（庶 務）

第9条 委員会の庶務は、関係部局の協力を得て庶務課において処理する。

（雑 則）

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、平成3年11月22日から施行する。

▶ 富山大学自己点検・評価に関する検討委員会規則  
の制定理由

大学設置基準及び大学院設置基準の一部改正に伴い、富山大学における教育研究活動等に関し、点検・

評価を行い、教育研究水準の向上及び活性化を図るため、富山大学自己点検・評価に関する検討委員会を設置し、それに必要な所要事項を定める。

## 富山大学入学試験委員会規則の制定

富山大学入学試験委員会規則を次のように定める。

平成3年11月22日

富山大学長 小黒千足

### 富山大学入学試験委員会規則

#### (設 置)

第1条 富山大学（以下「本学」という。）に富山大学入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

#### (目 的)

第2条 委員会は、本学における入学者の選抜を適正、かつ、円滑に運営することを目的とする。

#### (組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長及び教養部長
- (3) 各学部及び教養部から選出された教授 各2名
- (4) 学生部長
- (5) 保健管理センター所長

2 前項第3号の委員は、学部長又は教養部長の推薦に基づき、学長が命ずる。

#### (任 期)

第4条 前条第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (審議事項)

第5条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者選抜の基本方針に関する事項
- (2) 入学者選抜に係る試験の実施に関する事項
- (3) 学生募集に関する事項
- (4) 大学入試センター試験の実施に関する事項
- (5) その他入学者選抜に関する重要事項

#### (委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

#### (議 事)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

#### (実施本部等)

第8条 委員会に、入学者選抜に係る試験の実施のため、検査実施本部及び各学部検査場本部を置く。

2 検査実施本部に本部長を置き、学長をもって充て、各学部検査場本部に本部長を置き、各学部長をもって充てる。

3 検査実施本部及び各学部検査場本部に関する事項は、当該本部長が別に定める。

第9条 委員会に、大学入試センター試験の実施のため、試験実施本部並びに各学部及び教養部試験場本部を置く。

2 試験実施本部に本部長を置き、学長をもって充て、各学部及び教養部試験場本部に本部長を置き、各学部長及び教養部長をもって充てる。

3 試験実施本部及び試験場本部に関する事項は、当該本部長が別に定める。

#### (入学試験実施委員会)

第10条 委員会に、入学者の選抜及び大学入試センター試験の実施に必要な事項を協議するため、入学試験実施委員会（以下「実施委員会」という。）を置く。

2 実施委員会に関する規則は、別に定める。

#### (入学者選抜方法研究委員会)

第11条 委員会に、入学者選抜方法に関する必要な事項を調査研究するため、入学者選抜方法研究委員会（以下「研究委員会」という。）を置く。

2 研究委員会に関する規則は、別に定める。

（幹事）

第12条 委員会に幹事を置き、学生部次長をもって充てる。

（庶務）

第13条 委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

附 則

1 この規則は、平成3年11月22日から施行する。

2 この規則施行の際、現に富山大学入学試験管理委

員会委員である者は、この規則により委員を委嘱されたものとみなし、任期については、平成4年3月31日までとする。

3 次に掲げる規則は、廃止する。

(1) 富山大学入学試験管理委員会規則（昭和36年9月8日制定）

(2) 富山大学大学入試センター試験実施委員会規則（平成元年5月26日制定）

▶ 富山大学入学試験委員会規則の制定理由

富山大学における入学者選抜に関する機構を整備し、入学者の選抜を適正、かつ、円滑に実施できるよう、必要な事項を定める。

## 富山大学入学試験実施委員会規則の制定

富山大学入学試験実施委員会規則を次のように定める。

平成3年11月22日

富山大学長 小黒千足

### 富山大学入学試験実施委員会規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学入学試験委員会規則第10条第2項の規定に基づき、富山大学入学試験実施委員会（以下「実施委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組 織）

第2条 実施委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学生部長

(2) 各学部及び教養部から選出された教授 各2名

(3) 保健管理センター所長

(4) 情報処理センター長

2 前項第2号の委員は、学部長又は教養部長の推薦に基づき、学長が命ずる。

（任 期）

第3条 前条第1項第2号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第4条 実施委員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 入学者選抜学力検査（面接、小論文及び実技検査等の検査を含む。）の実施に関すること。

(2) 入学者選抜に係る電子計算機処理に関すること。

(3) 大学入試センター試験の成績処理に関すること。

(4) 大学入試センター試験の実施に関すること。

(5) その他入学者選抜の実施に関し必要なこと。

（委員長）

第5条 実施委員会に委員長を置き、学生部長をもって充てる。

2 委員長は、実施委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（議 事）

第6条 実施委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

（専門委員会）

第7条 実施委員会に、入学者選抜の実施のため、別表に定める専門委員会を置く。

- 2 専門委員会の委員は、実施委員会の委員長の推薦に基づき、学長が命ずる。
- 3 専門委員会の委員の任期は、1 年とする。
- 4 問題作成専門委員会及び採点専門委員会に、主任委員を置き、必要に応じて、副主任委員を置くことができる。
- 5 健康診断専門委員会及び電子計算機処理専門委員会に、委員長を置き、必要に応じて、副委員長を置くことができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、当該専門委員会において定めることができる。

(幹 事)

第 8 条 実施委員会に幹事を置き、学生部次長をもって充てる。

(庶 務)

第 9 条 実施委員会及び専門委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

(雑 則)

第10条 この規則に定めるもののほか、実施委員会の運営に関し必要な事項は、実施委員会において定めることができる。

## 附 則

- 1 この規則は、平成 3 年11月22日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に任命される第 2 条第 1 項第 2 号の委員の任期は、第 3 条の規定にかかわらず、平成 4 年 3 月31日までとする。
- 3 この規則施行後、最初に任命される第 7 条第 1 項に規定する専門委員会の委員の任期は、第 7 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 4 年 3 月31日までとする。
- 4 この規則施行の際、現に富山大学入学試験管理委員会規則第 6 条第 1 項第 1 号から第 3 号まで及び第 6 号の専門委員である者は、この規則により専門委員会の委員を委嘱されたものとみなし、任期については、平成 4 年 3 月31日までとする。

## [別表]

専 門 委 員 会 名	所 掌 事 項
問 題 作 成 専 門 委 員 会	(1) 教科・科目の問題作成に関すること。 (2) 教科・科目の問題の採点基準に関すること。 (3) その他教科・科目の問題に関すること。
採 点 専 門 委 員 会	(1) 教科・科目の答案の採点に関すること。 (2) 教科・科目の答案の採点結果の評価及び報告に関すること。 (3) その他教科・科目の答案の採点に関すること。
健 康 診 断 専 門 委 員 会	(1) 健康診断審査基準に関すること。 (2) 調査書における健康診断の判定に関すること。 (3) その他必要な事項
電子計算機処理専門委員会	(1) 入学者選抜業務のデータ処理システムに関すること。 (2) 入学者選抜業務のデータ処理に関すること。 (3) 合否判定資料の作成に関すること。 (4) その他入学者選抜に係るデータ処理に関し必要な事項

## ▶ 富山大学入学試験実施委員会規則の制定理由

富山大学入学試験委員会規則の制定に伴い、入学者の選抜及び大学入試センター試験の実施に必要な

事項を定める。



## 富山大学入学者選抜方法研究委員会 規則の全部改正

富山大学入学者選抜方法研究委員会規則（昭和39年12月18日制定）の全部を改正する規則を次のように定める。

平成 3 年11月22日

富山大学長 小黒千足

### 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則

富山大学入学者選抜方法研究委員会規則（昭和39年12月18日制定）の全部を改正する。

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学入学試験委員会規則第11条第2項の規定に基づき、富山大学入学者選抜方法研究委員会（以下「研究委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目 的）

第2条 研究委員会は、入学者選抜方法に関し、必要な事項を調査研究する。

（組 織）

第3条 研究委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（1） 学生部長

（2） 各学部及び教養部から選出された教授 各2名

2 前項第2号の委員は、学部長又は教養部長の推薦に基づき、学長が命ずる。

（任 期）

第4条 前条第1項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 研究委員会に委員長を置き、学生部長をもって充てる。

2 委員長は、研究委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（会 議）

第6条 研究委員会は、委員の2分の1以上の出席により成立する。

（専門委員会）

第7条 研究委員会に、専門的事項の調査研究を行うため必要があるときは、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員は、研究委員会の推薦に基づき、学長が命ずる。

3 専門委員会の委員の任期は、2年とする。

4 専門委員会に委員長を置き、専門委員会の委員の互選によって定める。

5 専門委員会の委員は、研究委員会に出席し、その調査研究の成果を報告するものとする。

6 前各号に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会において定めることができる。

（庶 務）

第8条 研究委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

附 則

この規則は、平成3年11月22日から施行する。

### ▶ 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の改正理由

富山大学入学試験委員会が設置され、富山大学入学者選抜方法研究委員会は、富山大学入学試験委員会に置かれること及び委員構成を改めることに伴い、所要事項を改める。また、併せて字句の整備を図るものである。

## 富山大学事務分掌内規の一部改正

富山大学事務分掌内規の一部を改正する内規を次のように定める。

平成 3 年11月27日

富山大学事務局長 勝山 進

### 富山大学事務分掌内規の一部を改正する内規

富山大学事務分掌内規（昭和61年 5 月28日制定）の一部を次のように改正する。

第14条学術情報係の項第 5 号中「調査・研究及び実施」を「調査及び研究」に改め、第 5 号を第 6 号とし、同条第 4 号の次に次の一号を加える。

(5) 図書館情報システムの管理に関すること。

### 附 則

この内規は、平成 3 年11月27日から実施する。

### ▶ 富山大学事務分掌内規の改正理由

附属図書館専用電子計算機導入及び図書館情報システムの整備・充実に伴い、所要事項を改める。

## 富山大学事務組織等検討委員会要項の制定

富山大学事務組織等検討委員会要項を次のとおり定める。

平成 3 年11月29日

富山大学事務局長 勝山 進

### 富山大学事務組織等検討委員会要項

#### （設 置）

第 1 条 富山大学事務協議会（以下「協議会」という。）に大学教育改善にかかる事務組織等のあり方を検討するため、富山大学事務組織等検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

#### （組 織）

第 2 条 委員会は、協議会の構成員のうち、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 庶務部長
- (2) 庶務課長
- (3) 人事課長
- (4) 主計課長
- (5) 施設課長
- (6) 学生課長
- (7) 各学部及び教養部の事務長

#### （委員長）

第 3 条 委員会に委員長を置き、庶務部長をもって充てる。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。た

だし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

#### （庶 務）

第 4 条 委員会の庶務は、庶務課及び学生課において処理する。

### 附 則

この要項は、平成 3 年11月29日から実施する。

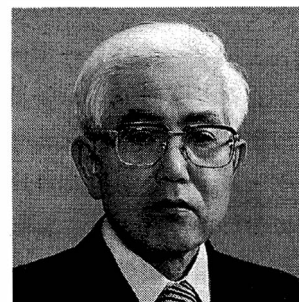
### ▶ 富山大学事務組織等検討委員会要項の制定理由

大学教育改善にかかる事務組織等のあり方を検討するため、富山大学事務組織等検討委員会を設置し、それに必要な所要事項を定める。

## 叙 勲

去る11月3日付けで、平成3年秋の叙勲が発表され、本学関係では次の方が受章されました。

名誉教授 竹 内 豊三郎 勲二等瑞宝章



## レクリエーション

平成3年度全国公務員レクリエーション共同行事  
富山地区卓球大会

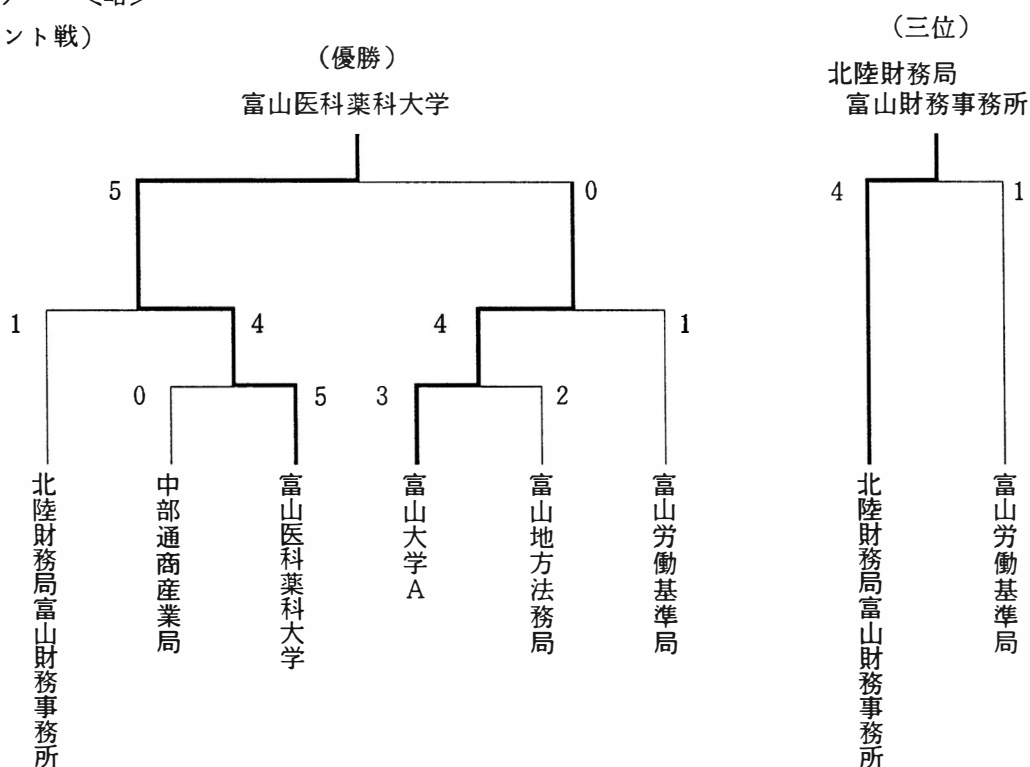
平成3年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区卓球大会が、去る11月20日(水)富山県総合体育センターにおいて開催されました。

同大会には、10機関から11チームの参加があり、3ブロックに分かれて熱戦を繰り広げました。本学からは、A、Bの2チームが出場し、よく健闘した結果、決勝戦は本学Aチームと富山医科薬科大学チームの対戦となり、健闘及ばず惜しくも次勝となりました。

なお、大会の成績は次のとおりでした。

(予選リーグ戦) <略>

(決勝トーナメント戦)



## 学内レクリエーション

### ＜バレーボール大会＞

本学レクリエーション委員会体育部会排球班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成3年度学内バレーボール大会が、去る11月16日（土）に本学第3体育館において開催され、熱戦が繰り広げられました。

なお、成績は次のとおりでした。

- （優 勝） 工学部チーム
- （次 勝） 教育学部チーム
- （3 位） 経済学部・附属図書館チーム
- （ ” ） 教養部チーム

### ＜卓球大会＞

本学レクリエーション委員会体育部会卓球班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成3年度学内卓球大会が、去る11月9日（土）に本学第2体育館において開催され、熱戦が繰り広げられました。

なお、成績は次のとおりでした。

#### ○団体戦

- （優 勝） 工学部チーム
- （次 勝） 本部チーム
- （3 位） 経済学部・附属図書館チーム

#### ○個人戦（男子の部）

- （優 勝） 青 木 茂 徳（工学部）
- （次 勝） 大 川 信 行（教養部）
- （3 位） 林 秀 一（工学部）

#### ○個人戦（女子の部）

- （優 勝） 伊 林 文 子（附属図書館）
- （次 勝） 西 部 仁 子（工学部）
- （3 位） 大 谷 直 美（工学部）

## 海外渡航者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡航先国	目 的	期 間
外国出張	工 学 部	教 授	塩澤 和章	中華人民共和国	第4回アジア・太平洋材料強度評価会議（APCS-91）に出席及び研究資料の収集	3. 10. 6 } 3. 10. 17
	経済学部	”	飯田 剛史	大 韓 民 国	環日本海経済交流に関する調査研究	3. 11. 3 } 3. 11. 8
	”	”	藤森 英男	”	”	3. 11. 10 } 3. 11. 16
	理 学 部	”	杉田 吉充	アメリカ合衆国	「シリコン材料の科学と技術に関するシンポジウム」に参加	3. 11. 25 } 3. 12. 1
	”	助 手	飯田 敏	”	”	”
海外研修旅行	経済学部	講 師	瀧 敦弘	中華人民共和国	北京外国語大学に訪問中の共同研究者との意見交換及び資料収集	3. 11. 24 } 3. 12. 1
	理 学 部	教 授	對馬 勝年	大 韓 民 国	氷核活性菌に関する研究	3. 11. 27 } 3. 12. 1



## 職 員 消 息

## 《新任者住所》

教育学部附属学校

事務補佐員 山中 順子

(附属学校第二係)

教 養 部

文部事務官 黒田 芳雄

(教務係長)

工 学 部

教 授 岩 渕 牧 男

(熱流体システム工学)

文部事務官 稲垣 克己

(会 計 係)

文部事務官 佐藤 修

(教 務 係)

## 《住所変更》

学生部学生課

臨時用務員 郷井 良平

工 学 部

教 授 井 上 正 美

(細胞工学)

教育学部

助 教 授 河 本 肇

(発達心理学)

## 『冬の省エネルギーに協力を!!』

石油、天然ガスなどのエネルギー資源は、地球の貴重な財産です。

資源の無駄使いは、地球の温暖化など地球環境の悪化を招く原因ともなります。

日頃からエネルギーを効率的に使用し、地球に優しい環境作りに心掛けましょう。

- 室温は20℃を目途に暖房が過度にならないよう心掛けること。
- 昼休み中の電灯は極力全部消す等、不用時の照明はこまめに消すこと。
- できる限り鉄道、バス等の大量輸送機関を利用すること。

## 主 要 行 事

## 本 部

- 11月 1 日 第49回東海・北陸地区国立大学長会議（於：福井医科大学）  
15大学事務局長会議（於：九州工業大学）  
第 2 回体育部会
- 5 日 国立大学等人事担当課長事務連絡会議（於：文部省）  
第 3 回学務関係係長会議
- 6 日 年金相談会（学生会館）
- 7～8 日 第12回国立大学等研究協力部課長会議（於：放送教育開発センター）  
平成 3 年度東海・北陸地区国立学校等施設系職員研修会（於：愛知県労働者研修センター）
- 7～9 日 第29回全国厚生補導研究集会（於：鹿児島市民文化ホール）
- 9 日 学内卓球大会
- 11日 第 3 回授業料等減免選考委員会  
第 5 回補導協議会
- 11～12日 全国国立大学理学系学長会議（於：茨城大学）
- 12日 大学教育改善検討委員会教育課程部会及び組織・制度部会  
第34回北陸六大学施設担当者協議会（於：富山医科薬科大学）
- 12～14日 第 3 回（平成 3 年度）富山県地区国立学校等中堅職員研修（於：富山大学、国立立山少年自然の家）
- 13～14日 国立大学協会第89回総会（於：学士会館）
- 13～15日 平成 3 年度国立学校等幹部職員研修（部長級）（於：国立教育会館）
- 14～15日 第73回東海・北陸地区国立大学学生部部課長会議（於：岐阜大学）
- 14～20日 平成 3 年度文部省施設担当職員研修会（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 15日 国立大学協会第56回事務連絡会議（於：学士会館）  
北陸地区人事担当課長会議（於：金沢大学）
- 18～20日 平成 3 年度厚生補導事務研修会（於：国立

オリンピック記念青少年総合センター）

- 18～21日 第 5 回（平成 3 年度）北陸地区国立学校等監督者研修（於：辰口共同研修センター）
- 19日 大学教育改善検討委員会教育課程部会及び組織・制度部会  
第 6 回入学試験管理委員会  
第 1 回大学入試センター試験実施委員会
- 19～20日 平成 3 年度第13回北陸地区大学等厚生補導担当者研修会（於：福井 鈴の里）
- 20日 部課長会議  
平成 3 年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区卓球大会（於：富山県総合体育センター）
- 21日 第 1 回レクリエーション委員会  
学生寄宿舍富山消防署立入検査
- 22日 第 6 回大学院委員会  
第 9 回評議会  
第 4 回部局長懇談会
- 25日 五福地区構内清掃
- 26日 大学教育改善検討委員会組織・制度部会  
第 4 回放射性同位元素総合実験室運営委員会
- 26～29日 第 6 回（平成 3 年度）北陸地区国立学校等監督者研修（於：辰口共同研修センター）
- 27日 文部省永年勤続者表彰  
第32回北陸地区大学学生部懇話会（於：金沢大学）  
日本育英会奨学金返還説明会（経済学部201番教室）
- 29日 第 5 回事務協議会  
富山県留学生等交流推進会議（於：名鉄トヤマホテル）

## 人 文 学 部

- 11月 6 日 学部将来計画委員会
- 11日 学術講演会（中国 新疆師範学校 候燦教授）
- 13日 学部将来計画委員会  
学部予算委員会

- 15日 学術講演会（アメリカ合衆国 ウィスコン  
シン・ミルウォーキー大学 イーハブ・ハッ  
サン教授）  
18日 特別昇給委員会  
20日 教授会  
教授会（人事）  
係長会議  
22日 紀要委員会

### 教育学部

- 11月6日 入学者選抜方法検討委員会  
6～7日 日本教育大学協会北陸地区会学長・学部長・  
学部教員合同会議（於：新潟大学）  
9～15日 附属養護学校入学願書・附属幼稚園入園願  
書受付  
12～13日 日本教育大学協会全国家庭科部門大会（於：  
沖縄）  
13日 学部教務委員会  
教授会  
人事教授会  
15～16日 日本教育大学協会北陸地区会教育実践研究  
指導部門研究協議会（於：富山大学）  
日本教育大学協会北陸地区会教育学・教育  
心理学・特殊教育・幼児教育部門研究協議  
会（於：金沢大学）  
20日 学部予算委員会  
人事教授会  
日本教育大学協会全国美術部門協議会（於：  
三重大学）  
20～22日 全国国立大学附属学校連盟副校園長会研究  
会・日本教育大学協会附属学校連絡協議会  
副校園長分科会並びに国立大学・学部附属  
学校管理運営等協議会（於：香川県香川郡）  
21日 学部図書委員会  
22日 教育実習委員会  
27日 拡大学部将来計画委員会

### 経済学部

- 11月6日 学部補導委員会  
8日 第8回夜間主コース設置15大学懇談会（於：  
KKR東京竹橋）

- 12日 学部施設整備委員会  
13日 学部教務委員会  
人事教授会  
教授会  
15日 平成3年度秋季国立12大学経済・経営学部  
長及び事務長会議（於：東京郵便貯金会館）  
25日 学部入学方法検討委員会（持ち回り）  
学部教育改善検討委員会委員と教養部将来  
計画委員会委員との懇談会  
26日 係長会議  
学部職業補導委員会  
27日 学部教務委員会  
教授会  
29日 係長会議

### 理学部

- 11月5日 動物実験委員会（持ち回り）  
学術講演会（アメリカ合衆国 テネシー大  
学 L. G. ヒコック教授）  
13日 教育改革問題等懇談会  
学科主任会議  
18日 特別昇給委員会  
20日 教授会  
理学研究科委員会  
人事教授会  
係長会議  
26日 学部教務委員会

### 工学部

- 11月1日 学部運営委員会  
係長会議  
6日 教授会  
工学研究科委員会  
専任教授会  
7日 学部図書委員会  
学部教育改善組織検討委員会  
8日 拡大教務委員会  
15日 拡大教務委員会  
学部温交会幹事会  
18日 北陸信越工業教育協会富山県支部幹事会  
21日 動物実験委員会

25日 学部図書委員会

27日 選考委員会

保健管理センター

11月27日 健康の集い

## 教 養 部

11月6日 推薦委員会

紀要委員会

将来計画委員会

13日 補導委員会

予算委員会

将来計画委員会

19日 将来計画委員会

20日 教授会

27日 推薦委員会

将来計画委員会

29日 図書委員会

## 附 属 図 書 館

11月5日 係長連絡会

14日 第6回附属図書館商議会

18～21日 平成3年度大学図書館職員講習会（於：大阪大学附属図書館吹田分館）

19～20日 平成3年度北信越地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（於：信州大学附属図書館）

25～26日 第5回国立大学図書館協議会シンポジウム（於：関西地区大学セミナーハウス）

29日 係長連絡会

30日 富山県図書館協会創立60周年記念式典（於：富山県立図書館）

## 水素同位体機能研究センター

11月19日 消化訓練

## 地域共同研究センター

11月14日 先端企業見学研修

20日 第5回経営者・研究者交流会

26日 米国デューク大学関係者視察

編 集 富山大学庶務部庶務課

富山市五福3190

印刷所 あけぼの企画株式会社

富山市住吉町1丁目5-18

電話 (24) 175540